

ばんけい

教育ほつとにゅーす
かわら版こ みち
教育の小径No.84
10月号
2015 October

今月のことば

秋の日は
つるべ落とし

つるべ(釣瓶)とは井戸から水をくみ上げるもの。つるべを井戸に落とすと、真下に滑るように落下します。これと同様に、秋の日は急速に暮れていくことをいいます。「日」とは太陽のことです。

国士舘大学教授
北 俊夫先生

自尊心をどう育てるか

- 自尊心とは、「自分は価値のある存在である」と思う気持ちのことです。自尊心を育てることは、一人の人間の人格が形成されていくうえでとても重要です。
- 自尊心を育てるポイントは、一人一人に応じて、自信をつける言葉かけを心がけるとともに、学級集団のなかで育てるという視点を重視することです。

今月の記念日

登山の日(10月3日)

1992年(平成4年)に、日本アルパイン・ガイド協会が正しい登山の普及と発展を目指して制定しました。「10(と)と3(さん)」の語呂合わせです。

自尊心とは何か

自尊心とは心理学の用語です。定義の仕方は研究者などによって多少異なります。『広辞苑』などの国語辞典では「他人の干渉を排除しようとする心理・態度。プライド」などと記されていますが、ここでは、自尊心を「自分はかけがえない存在である、価値のある存在であると思う心情のこと」と定義づけます。

また自尊心は、友だちなど他者と優劣などの観点で比較して、価値を相対的に判断するものではありません。あくまでも一人の存在を絶対的かつ肯定的にとらえることです。その意味で、セルフ・エスティームの訳語である自尊感情や自己肯定感と類似しています。

子どもたちの自尊心は、親や教師、友だちなど他者とのかかわり合いのなかで、さまざまな影響を受けながら、そのあり方が規定されます。日常生活を生き生きと創造的に営んだり、他者との良好な関係をつくったりするときの基盤となるものです。一人一人に安定した自尊心を養う学級経営が求められます。

自尊心が養われ自尊感情の高い子どもは、生きる目標を明確にもち、何ごとにも挑戦しようとする意欲や行動力があるといわれています。

また、学級集団のなかで積極的に発言したり活動したりするなど、友だちとの関係づくりにも優れています。子ども一人一人に確かな自尊心を養うことは、学級担任の重要な役割だといえます。

自尊心を育てるポイント

自尊心を育てるために、大きく二つのポイントがあります。一つは、一人一人のよさを見だし、自信をつける言葉かけをかけるなど個別にかかわることです。言葉でほめることもあれば叱ることもあるでしょう。ほめることは認めることであり、叱ることは成長への可能性を信じて励ますことです。そのためには、次のことを重視します。

まず、結果や成果よりも努力の過程をほめます。結果だけを重視すると、もしできなかったとき、自分は駄目なんだと受けとめてしまうからです。期待した結果でなかったときにも、「よく頑張ったよ」と努力したことを認めてやります。そのうえで、「次は大丈夫だよ」と次への挑戦意欲をもたせ、可能性を信じていることを伝えます。

また、できたこと的能力や優しさなど性格のよさをほめ、仮に失敗しても人格を否定した叱り方をしないことです。叱り方を間違え、子どもの存在を否定することにつながり、子どもは「自分は

駄目な人間なんだ」と思うようになるからです。あくまでも行った行為や活動に対して、その価値や意義を評価します。さらに、叱るときには、事実をしっかりと確認すること、理由を聞き背景をとらえること、感情を押さえることなどに留意します。

いま一つのポイントは、学級など集団とのかかわりのなかで育てることです。これは学校ならではの育て方です。努力したことを学級の子どもたちに伝え、互いに理解し合い、認め合うようにします。「帰りの会」などで「今日頑張った人」を発表し合う取り組みも行われています。

また、学級などでの係活動を充実させ、一人一人に役割をもたせるとともに、学級集団の一員としての自覚をもたせるようにします。自分が学級みんなの役に立っていると意識することは、自己有用感を育てることです。仕事をやり遂げることにに対して責任感を育てることにもつながります。

子どもの自尊心を育てることは、学級や学校という集団のなかで、一人一人の人格を形成することです。そのためには、人権尊重を基盤にした、認め合い支え合う人間関係づくりと、学級集団づくりを重視した学級経営が基盤になります。友だちとのかかわりのなかで育てることを強く意識したいものです。

地図や地球儀のある風景

テレビでは、政治、経済、文化、スポーツ、観光などあらゆる分野で、日本の各地域はもとより、世界の出来事が放映されています。居ながらにして世界のことをリアルタイムで知ることができます。こうした情報のほかに、外国から日本にやってきた人やものについての報道もあります。ニュースやドラマなどの番組に、国内や外国の地名が登場することもあります。

また、スーパーマーケットでは、日本の各地域だけでなく、遠く外国から運ばれてきたさまざまな果物や野菜、魚介類なども売られています。

このような場面に出会ったとき、おとなでも聞き慣れない地名や国名などを耳にすることがあります。身近に地図帳や地球儀があれば、その場ですぐに位置を確かめることができます。かつては、子どもが小学校に入学したとき、祖父母や親が贈ったお祝い品の定番は地球儀だったと聞いたことがあります。いまではどうでしょうか。

家のなかに日本や世界の地図が掲示されていたり、地図帳や地球儀が置かれたりしていると、必要なときいつでも手に取り、不明なことを確認することができます。地図をトイレなどに掲示している家庭も多いと聞きます。

地図や地球儀に日常的に接することによって、知識を習得することができます。その結果、子どもの視野を広げることができます。また、家族で会話が生まれるきっかけにもなります。



国民の読書傾向

文化庁は毎年、全国の16歳以上の男女を対象に「国語に対する世論調査」を実施しています。平成26年3月に実施した調査によると、「読書」に関して次のようなデータが見られます。

1か月に大体何冊ぐらい本を読んでいるかを聞いたところ、「1冊も読まない」と回答した割合は47.5%でした。平成14年度調査と比べて10%も増加しています。これを世代別にみると、16～19歳が34.8%から47.2%に増えています。

人が最も読書すべき時期はいつ頃かについては、「10歳代」が44.8%

と最も高く、次いで「年齢に関係なくいつでも」が20.2%、「9歳以下」が16.6%となっています。

読書量が以前と比べて「減っている」と回答したのは65.1%で、その理由として最も多いのが「仕事や勉強が忙しくて読む時間がない」(51.3%)です。次いで「視力などの健康上の理由」(34.4%)、「情報機器で時間が取られる」(26.3%)となっています。

「読書することの良いところは何か」を聞いたところ、「新しい知識や情報を得られること」(61.6%)、「感性が豊かになること」(40.0%)、「豊かな言葉や表現を学べること」(38.6%)、「想像力や空想力を養うこと」(31.2%)と続いています。

コラム ものの見方・考え方とは何か(12)

時系列で整理する

「時系列」とは、ある現象の時間的な変化を連続的にとらえることです。時間軸にもとづいて、ひとつの現象に関連しているさまざまな要素ごとに、その推移を整理することにより、全体の流れをイメージしたり、現象の本質を把握したりできるようになります。

現象の本質をとらえるには、それがいまだどのような状況なのかを理解することが大切です。合わせて、それがこれまでどのように変化してきたかを時間を追って把握することによって、より確かなものになります。その結果によっては、現象に対する見方・考え方が変わり、問題解決の方法にも違いが出てくる場合があります。

例えば運動会の開会式を計画するとき、縦軸に時間(分)を書き出し、横

軸に校長、指揮者、担任、放送担当、補助の教師、各学年の子どもなどを配置します。どの時点で、だれが何をするのかを書き出していきます。ここでのポイントは、それぞれの役割が相互にスムーズに連携することです。

子どもが問題行動を引き起こしたときも、問題を引き起こすまでの経過を時間を追って整理します。このことは事実を客観的に把握するために、また原因を明確にし、その後の対応策を誤りなく考えるために重要な手法です。

そのためには、事案に対して「いつ(月日、時分)」「だれが」「どのようなことを」行ったのかをできるだけ詳細に記録します。日頃から時系列で記録する習慣を身につけたいものです。

現象を時系列で整理することによって、現象に対する見方・考え方、さらには対応の仕方が明確になります。

INFORMATION

大好評 新学年へのパスポート **5年へGO!**



教科で選べるしあげ教材 ※写真は4年の例 **ぶんけい**

編集後記

地図や地球儀のように、家庭に何気なくあるものに触れながら得る学びには、それによって知識が得られるだけでなく、身のまわりにある何をどのようにして自分の学習に役立てようかという創意工夫も試されます。そうした学習の姿勢やアイデアの積み重ねこそ大切にしたいものです。(T記)

企画・編集：ぶんけい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2015年10月1日